



市民に開かれた議会運営の実現と 白河の発展に力を合わせましょう

「住む人が誇りを持ち、 訪れる人が楽しめるまち」を ともに創っていきましょう



白河市議会議員 須藤博之

平成26年の年頭に際し謹んでご挨拶を申し上げます。
東日本大震災から間もなく3年の月日が流れようとしています。被災され今なお避難生活を強いられている皆さまに対し、改めてお見舞い申し上げます。
さて、昨年は、震災からの本格的な復興、そしてさらなる発展へと市民の皆さまとともに歩みを進めてまいりました。市のシンボルでもある小峰城の復旧工事の着工や西郷擲目線結城工区の開通、そして健康スポーツセンターの建設を含む市総合運動公園の改修整備、さらには、現在着々と整備が進んでいる新市民文

化会館や国道4号4車線化など、目に見えて着実な復興、そして発展を遂げてきております。
今後、地方分権が加速していく中で、地域自らがその責任において、課題の解決や地域づくりの主体的に取り組まなければなりません。そのため、行政だけでなく、私たち議会、そして市民の皆さまが一体となって地方自治に取り組んでいく姿勢が求められてくると考えております。
そのような中、議会においては、市民に開かれた議会運営の実現並びに市民の信頼と負託にこたえる議会を目指すため、「議会改革特別委員会」

を設置し、議会改革に取り組んでいるところであります。その中で、議会報告会や各団体との意見交換会の開催を予定しており、現在準備を進めております。開催の折には、ぜひ皆さまに足をお運びいただき、我々の活動をより身近に感じていただければ幸いです。
議会は市民の皆さまの最も身近な存在として今後も汗を流してまいります。白河市の発展のため、安心安全なまちづくりのため、より一層の市民生活の向上のため、ともに力を合わせがばりましょう。結びに、市民の皆さまにとりまして、幸多い一年となりますようお祈り申し上げます。



白河市長 鈴木和夫

謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。
大震災から間もなく3年、解決までに時間のかかる原発問題は残っているものの、復旧総仕上げとなる小峰城の石垣修復に着手するなど、復興に向けて着実に前に進んでいきます。
さて、本格的な地方分権時代を迎え、これからの市町村は地域が抱える課題とともに、少子高齢化や人口減少、産業構造の変化など広範な課題にも的確に対応していかなければなりません。そのためには、目の前にある課題に対処しつつ、将来を見据えた時間軸の視点による政策も必要です。

市では除染など放射能対策に全力で取り組む一方、財政の健全化を図りながら、地元企業への支援や企業誘致による産業の振興、道路や学校などインフラの整備、豊富な歴史・文化的資源を活かしたまちづくりなどに力を入れて取り組んでまいりました。その結果、ヤフーをはじめ多くの企業が進出、3月には三菱ガス化学に土地が引き渡しとなり、国道4号4車線化も年度内には白河病院入口まで延伸されるなど、発展の礎となる事業が次々と形になって表れてきています。また、多くの利用者で賑わう図書館の隣に、文化・芸術の発信拠点となる新

市民文化会館の建設が間もなく始まります。
今後はこれらの事業に加え、生活道路の整備や医療の充実など地域の利便性や安全性により配慮したきめ細かな施策を重点的に推進するとともに、子育て支援や確かな学力の向上など白河の未来を担う「人づくり」の施策にも取り組んでまいります。
まちづくりの目指すところは「住む人が誇りを持ち、訪れる人が楽しめるまち」の創出です。自分たちのまちは自分たちで創るという自主自立の気概をもって、市民の皆さまとともに今年も歩んでまいります。